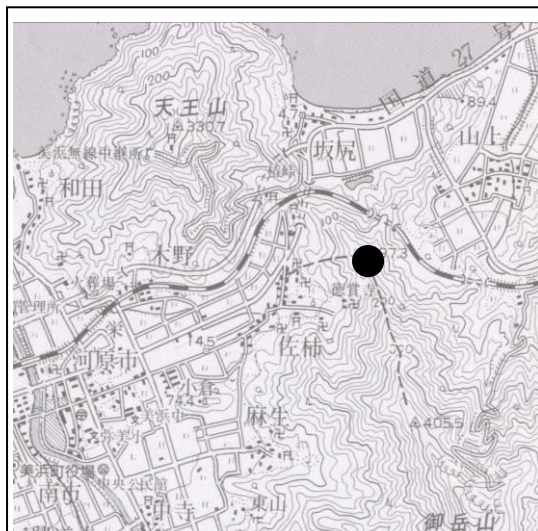


## くによしじょうしかんれんいせき 19. 国吉城址関連遺跡

所在地：美浜町佐柿地係  
調査原因：国吉城址史跡公園整備事業  
調査期間：平成28年7月12日～12月22日  
調査主体：美浜町教育委員会  
調査面積：60㎡  
時代：中世末～近世初期



位置図(S=1/50,000)

**調査の概要** 美浜町では、国吉城址とその周辺遺跡群を含む歴史的景観の保存整備を図り、史跡公園として活用するため、平成12年度より確認調査を実施しています。

平成28年度の第17次調査では、山城部本丸跡東虎口跡調査区の最終調査と成果のまとめを行いました。

**遺構** 国吉城山城部本丸跡では、これまでに2つの虎口(出入口)が確認されています。一つは、昨年度までの調査で、鏡石を伴う石垣造りの平虎口の構造が判明した北西虎口です。椿峠や城主居館から通じるルート側の門で、正面虎口ともいえます。

もう一つは、腰越坂や越前国敦賀方面を向く東虎口です。調査前は、虎口空間の存在は明確であるものの、門の位置や虎口内の導線は全く不明で、周辺に石材が散乱することから、石垣造りの虎口という程度の推定しかできませんでした。

東虎口跡の調査は、虎口内部に比定される空間に調査区を設定し(1～3T)、遺構確認を行ってきました(図1)。

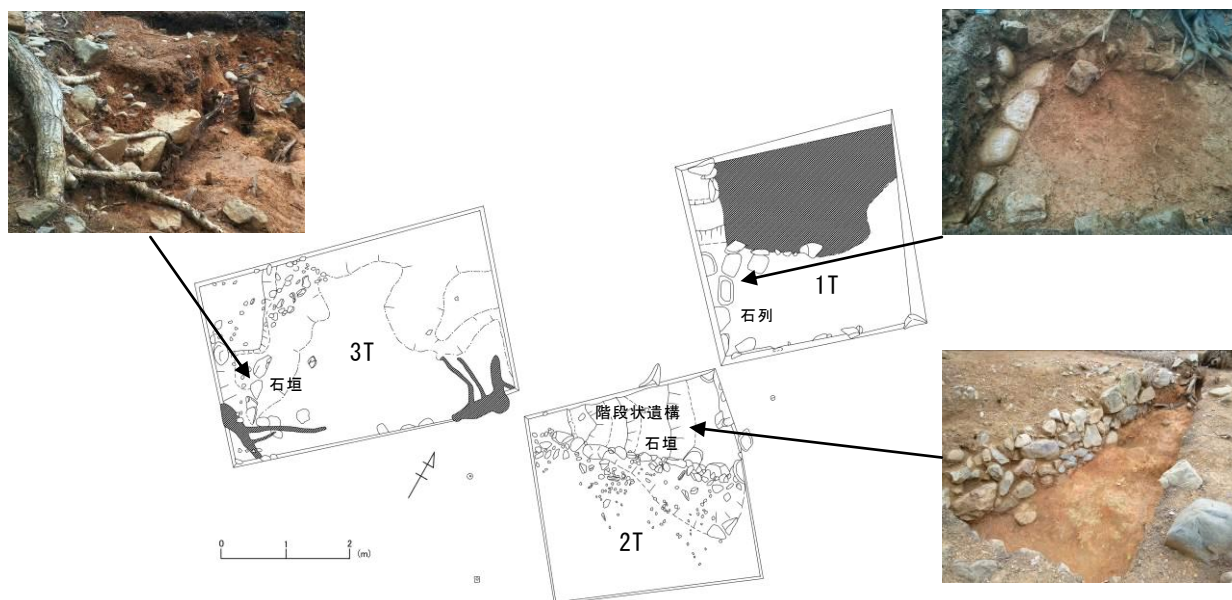
1Tは虎口空間の下段に当たり、石垣が崩落したものとみられる大量の石材で埋められた上、大木の根による攪乱も多く見られました。昨年度調査で、石垣崩落層を撤去すると、黄褐色粘質土の平坦面を検出し、トレンチ西壁際から、南北方向の石列が確認されました。

2Tでは、南から北へ落ちる斜面に沿って、東西方向を軸として石材を1～3段程度積んだ石垣遺構が確認されました。今年度調査で石垣基壇部まで掘り下げたところ、地山を階段状に削った痕跡を確認し、石垣はその階段状の地山に積んでいることが明らかになりました。また、1Tで検出した南北石列は、一部石が抜けているところはあるものの、2T東西石垣の下層に入ることも判明し、石段を伴う階段遺構が先行して築かれた後、石垣を積んだことが判りました。

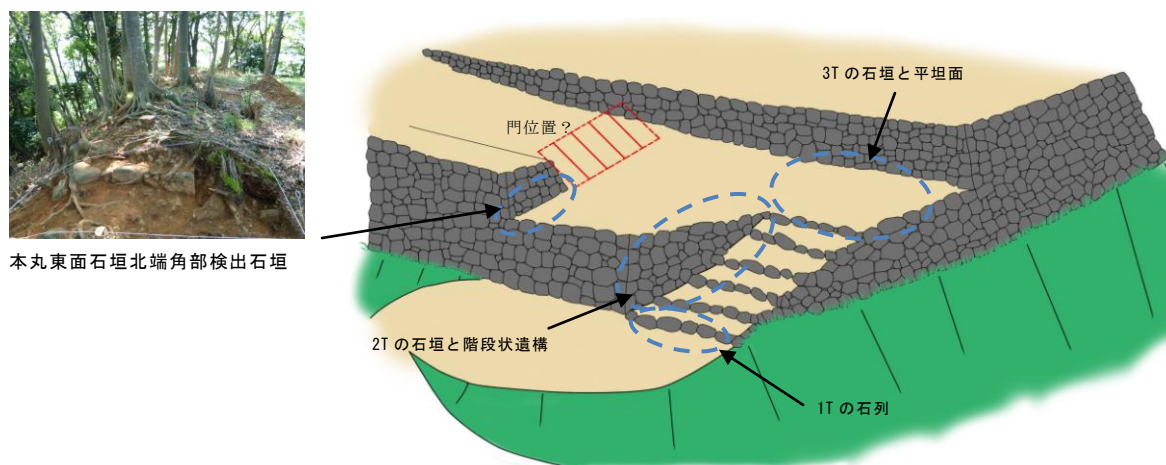
3Tでは、昨年度検出した石垣崩落層を掘り下げたところ、比較的平坦な地山面を検出し、トレンチ西側で東西方向の石垣を確認しました。立木の根などで攪乱を受けているものの、虎口西限の石垣であると思われます。

**遺物** 今次調査では、土師質土器、国産陶器、中国製磁器片などが出土しましたが、出土量は極めて少量です。

**まとめ** これまでの調査成果を受けて、東虎口の構造を推定復元したものが図2です。発掘調査前の東虎口跡付近は、なだらかな九十九折れの坂道を上がっていましたが、S字の坂道から直線状の階段を登り、平坦な空間を石垣に沿って左（南側）に折れて本丸に入る「外柵形」構造であったと思われます。門部は、今回の調査区の範囲では確認できませんでしたが、今回推定した構造と、本丸正面の北西虎口の構造（門前部に平坦な空間が存在）から考えると、門部は上段平坦部の奥側、斜線枠辺りになるのではないかと推定されます。以前、本丸南隅櫓台から東虎口跡に至る本丸東面の調査を行った際、途中で隅部のある北面石垣が確認され、なぜ途中で石垣が終わるのか疑問でしたが、その付近に門があったと考えるならば納得できます。（大野康弘）



第1図 山城部本丸跡東虎口調査区平面図



第2図 山城部本丸跡東虎口遺構推定復元図